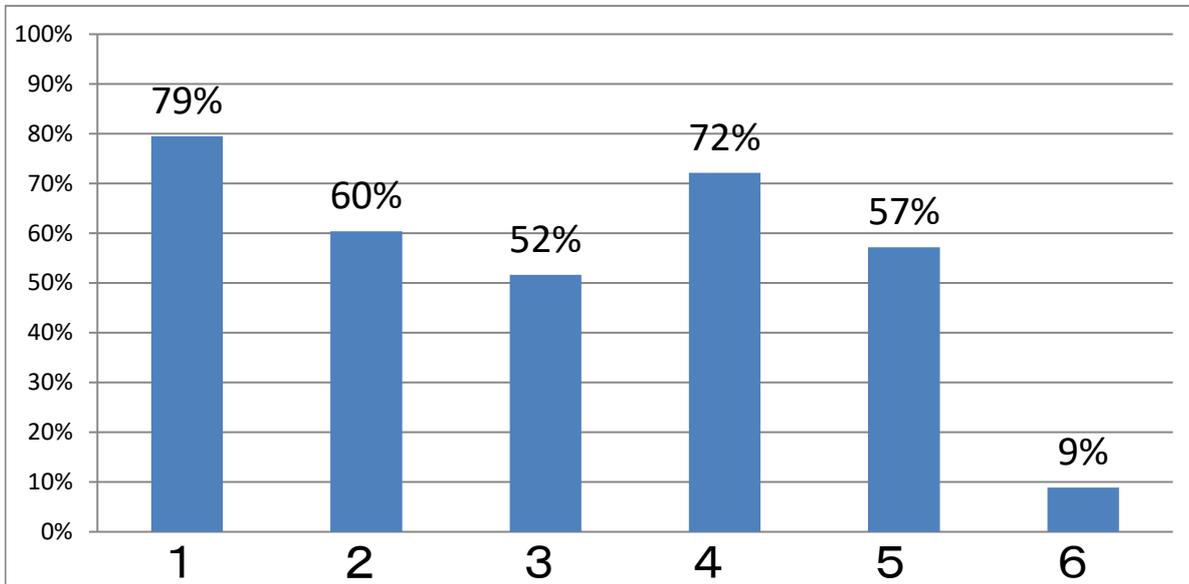


令和3年度那覇市小中学校 オンライン学習 教職員アンケート【結果詳細】教職員1
令和3年10月13日時点

オンライン学習実施期間 : 令和3年8月30日(月)~9月17日(金)
アンケート調査回答期間 : 令和3年9月22日(水)~10月1日(金)

調査対象 : 那覇市内小中学校 教職員(775名) ※ 授業を行った教員対象

1. オンライン学習でどのようなことをおこないましたか。(複数回答可)

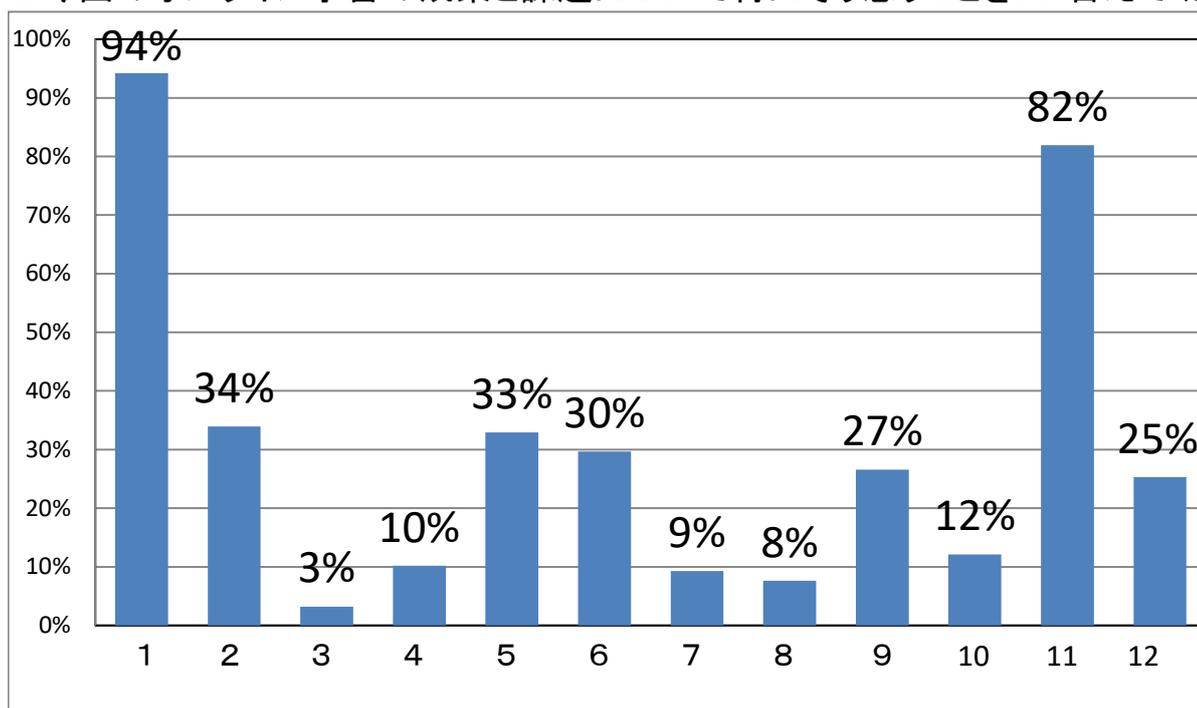


| 質問項目 | 回答数 | 割合 |
|---|------|-----|
| 1.Meetで健康観察を行った | 616 | 79% |
| 2.Meet(ミーティング)でオンライン授業を行った | 468 | 60% |
| 3.動画教材(オンデマンド)で学習を行った | 400 | 52% |
| 4.Classroom(クラスルーム)から配布された課題(かだい)等で学習を行った | 559 | 72% |
| 5.タブレットドリル(AI型ドリル教材)などで学習を行った | 443 | 57% |
| 6.Meet(ミーティング)で友だちと学び合いを行った | 69 | 9% |
| 総計 | 2555 | 775 |

その他の取組

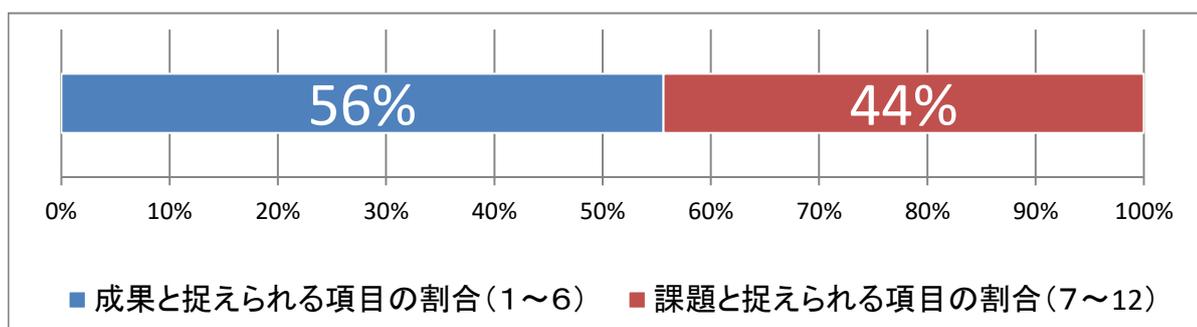
タイピング学習
Googleフォームを活用した小テスト・振り返り学習
児童生徒同士の自由時間(10分程度)
生徒会活動として、ミーティングや資料作成など協働活動

2. 今回のオンライン学習の成果と課題について特にそう思うことを3つ答えてください。



| 質問項目 | 回答数 | 割合 |
|----------------------------|------|-----|
| 1. オンラインで友達や先生と顔を合わすことができた | 730 | 94% |
| 2. 先生に質問がしやすかった | 263 | 34% |
| 3. 友だちと学び合うことができた | 25 | 3% |
| 4. 集中して学習に取り組むことができた | 79 | 10% |
| 5. 自分のペースで学習を進めることができた | 255 | 33% |
| 6. 生活リズムがくずれなかった | 230 | 30% |
| 7. 学習に取り組む内容が多くて大変だった | 72 | 9% |
| 8. オンラインで長い時間授業をうけるのはつかれた | 59 | 8% |
| 9. 先生に質問がしにくかった | 206 | 27% |
| 10. オンライン授業の回数(かいすう)が少なかった | 94 | 12% |
| 11. オンラインで通信が繋がらないことがあった | 635 | 82% |
| 12. タブレットを使うことがむずかしかった | 196 | 25% |
| 総計(左:総回答数、右:回答教職員数) | 2844 | 775 |

| | | |
|---------------------|------|-----|
| 成果と捉えられる項目の割合(1~6) | 1582 | 56% |
| 課題と捉えられる項目の割合(7~12) | 1262 | 44% |



3. 上記2以外で成果と感じたことがあればお書きください

<教職員:成果>

(主な内容)

- ①学びを止めない取組ができた。
- ②感染拡大防止ができた。
- ③タブレットを活用した授業の可能性を感じる事ができた。

(教職員の声)

- ・子どもたちがタブレット学習に興味を示しており、意欲的に学習している様子がある。
- ・教員が、授業の動画を作って UP することで、児童のペースで学習を進めることができた。特に低学年は学校での預かりや学童に行く児童もいるため、オンデマンド方式がいいと感じた。
- ・不登校の生徒が、オンラインで朝の会等に参加でき、健康観察シートを送信することができた。
- ・普段、様々な事情で登校できていない生徒にとっては、自宅にいながら授業に参加できたと取り組みやすい。
- ・対面接触を避けることで、新型コロナの感染拡大防止及び流行期における学校との関係において、保護者・児童の心理面の安心に繋がった。
- ・休校や分散登校など登校が難しい状況になっても、オンラインやオンデマンドなどの方法をとることで学習をすすめることができる。
- ・タブレットを使用したほうが、教師側も生徒側も効率的な学習があることが発見できたこと。今後の学校での授業でも生かしていけると感じた。
- ・オンライン授業でできることできないことを試行錯誤しながら、授業をわかりやすく伝えるためのより効果的な教材研究やパソコンを道具として使える教師の技術、操作力が上がった。

4. 上記2以外で課題と感じたことがあればお書きください。

<教職員:課題>

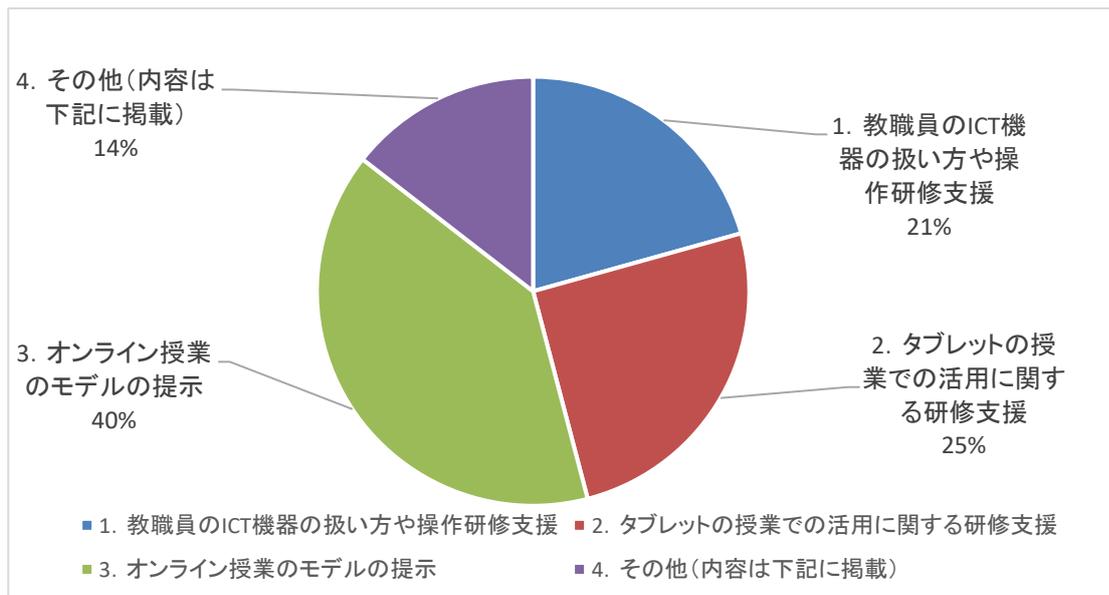
(主な内容)

- ①画面越しでは、学習の理解度を見取ること難しい。
- ②低学年や特別支援学級の児童では、家庭との協力が必要である。
- ③教師の ICT 指導力の向上が必要である。

(教職員の声)

- ・オンライン上なので、教員が児童の学習内容の理解を図ることがなかなか難しい。
- ・オンライン学習では対面とは違い、教師が一人ひとりの表情を受け取ることができにくかった。
- ・低学年の児童は、大人と一緒にないと難しい。
- ・特別支援学級は、異年齢個別指導の学習が多いので、ミートで学習を進めるのは難しい。
- ・生徒への指示がうまく伝わらない等あったので、教師自身がしっかり活用できるようにならなければいけないと感じた。
- ・教師が、目の前の児童とオンライン授業の児童とを、同時に授業を行うことはかなり難しい。
- ・Google の色々な機能を使用し、授業を試行錯誤で行ったので苦しかったです。研修や勉強会がもっと必要だと思いました。

5. 今後、解決すべきことや支援してほしいことについてお答えください。



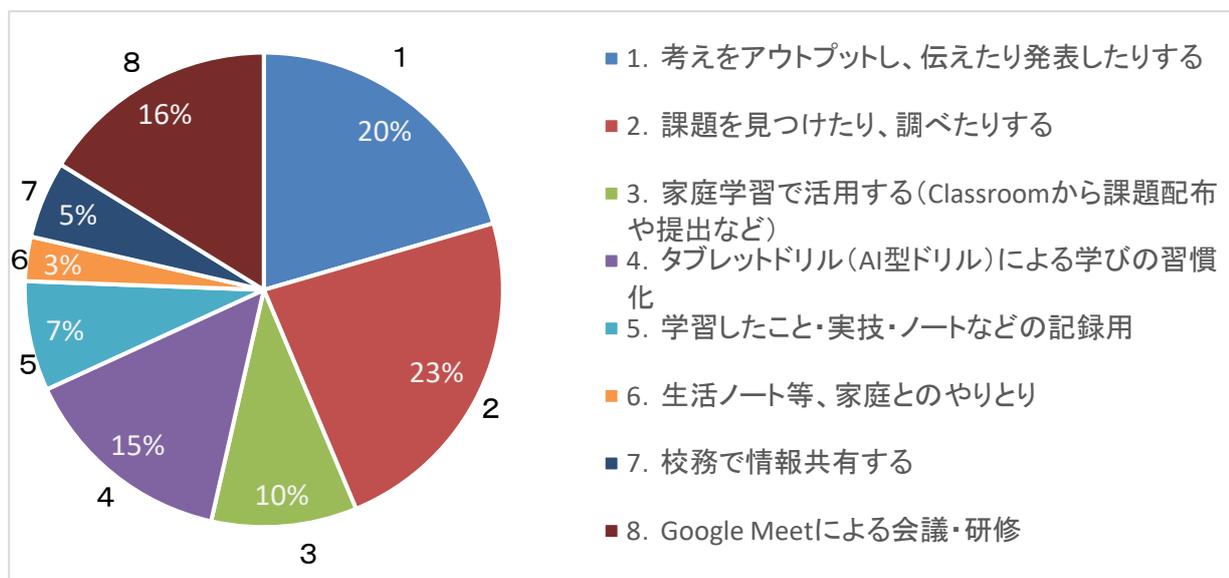
| 項目 | 回答数 | 割合 |
|-------------------------|-----|-----|
| 1. 教職員のICT機器の扱い方や操作研修支援 | 160 | 21% |
| 2. タブレットの授業での活用に関する研修支援 | 196 | 25% |
| 3. オンライン授業のモデルの提示 | 307 | 40% |
| 4. その他(内容は下記に掲載) | 112 | 14% |
| 総数 | 775 | - |

その他

通信環境の増強
ICT支援員の訪問日の増加
職員の日常使いへの意識
簡単なトラブルへの対応方法

ソフトのマニュアル作成
児童生徒の情報モラル教育
不登校生徒への学習支援方法

6. 日常的にタブレット端末を使ってどんなことができるか。(主として取り組みたいこと)



| 項目 | 回答数 | 割合 |
|------------------------------------|-----|-----|
| 1. 考えをアウトプットし、伝えたり発表したりする | 156 | 20% |
| 2. 課題を見つけたり、調べたりする | 177 | 23% |
| 3. 家庭学習で活用する(Classroomから課題配布や提出など) | 75 | 10% |
| 4. タブレットドリル(AI型ドリル)による学びの習慣化 | 111 | 15% |
| 5. 学習したこと・実技・ノートなどの記録用 | 57 | 7% |
| 6. 生活ノート等、家庭とのやりとり | 23 | 3% |
| 7. 校務で情報共有する | 40 | 5% |
| 8. Google Meetによる会議・研修 | 123 | 16% |
| 総数 | 762 | - |